

たかむくのまちづくり

協議会
広報紙

No.40

世帯数 2,885戸
人口 7,588人
男 3,738人
女 3,850人
R7.1.31 現在

高椋の人口

目次

- p2 … 高椋地区防災計画策定委員会設立準備
- p3 … 高椋ふれあいまつり、丸岡古城まつり
- p4 … 田んぼアート稲刈り、西大寺お米おくり
- p5 … クリスマスコンサートほか
- p6 … 高椋まめ知識、区長会、子どもの居場所づくり



たかむくのまちづくり

第40号 R7.2.26

まちづくり協議会に対するご意見は
たかむくのまちづくり協議会事務局まで

〒910-0242 (高椋コミュニティセンター内)
福井県坂井市丸岡町西里丸岡12-21-1
TEL (0776) 68-0843
koshinotakamuku@gmail.com

高椋「子どもの新たな遊び場」準備中です

十二月上旬に、高椋小児童を対象に、約三十人で「誰もが行きたくなるコミセン」をテーマに「まち未来トーク」を開催しました。

その時に子どもたちから「コミセンは大人しか使っちゃだめだと思ってた。」という声が聞かれました。

そこで、ボランティアやまち協の協力を得て、十二月二十六日と一月七日に試験的にコミセンを開放しました。

ボードゲームやドッチビー、学習コーナー等を用意し、二十人ほどの児童が訪れました。

今後定期的なこのような「開放デー」を設けて、子どもたちが安全で安心して遊べる居場所作りをしていこうと思います。



編集後記

今回の年末年始はなんと十連休。三十数年前に就職して以来、病気休暇以外では最長の休暇にもかかわらず、旅行どころか坂井・あわら・福井エリアから外に出ることもなく、かといって大掃除すらすることなく、見事にはほろ正月で十日間が過ぎ去って行きました。

元日の地震で落ち着かなかった昨年のお正月と比べのんびりとはできましたが、だからと何をやる気も起きない日々を過ごしてしまいました。このさまで数年後、定年を迎え仕事を辞めた後の生活が思いやられます。

(U)

高椋まめ知識 No.40

阿彌陀三尊來迎と遊行上人縁起絵巻断簡

称念寺の阿彌陀三尊來迎は阿彌陀如来、聖觀世音菩薩、勢至菩薩の立像三尊像である。寄木造り、内剥（頭や胴の内部を剥いたもの）、玉眼（ガラスや水晶の目玉）の手法で彫成され、納衣（粗末な袈裟や上着）の唐草文様等は鎌倉後期の手法をよく残している仏像で、よく見ると立像が少々前屈みになっており、お顔には笑みの表情があることから、参拝者を迎え入れる様子がかげえる。

称念寺縁起によると、この三尊像は永徳元年（一三八二）頃、豊原寺から移された仏像で、称念寺の「遊行上人縁起絵巻断簡」と交換したとある。豊原寺に移された絵巻断簡は「遊行上人縁起絵巻断簡」と交換したとある。豊原寺に移された絵巻断簡はおそらく天正三年（一五七五）織田信長の豊原寺焼き討ちで焼失しているのではないだろうか。

※正応三年（一二九〇）に他阿真教上人が越前布教した様子を描いた絵巻物で断簡とは分断されたコマゴマの絵

(松本盛博・記)



称念寺所蔵の阿彌陀三尊來迎
中央本像 阿彌陀如来 像高78 cm 左脇侍 聖觀世音菩薩 像高53.5 cm
右脇侍 勢至觀音菩薩 像高53.5 cm
坂井市指定文化財(昭和60年6月25日指定)



称念寺所蔵の絵巻断簡模写の一部

令和7年 高椋地区区長会スタート

一月十七日(金)、高椋コミセンにおいて令和七年の高椋地区初区長会が開催されました。今年一年、どうぞよろしくお願いします。



高椋地区防災計画推進委員会の設立準備始まる

昨年五月から十二月まで、区長会やまち協、高椋地区住民約七十名で行った「高椋地区防災計画策定ワークショップ」で作り上げた高椋地区防災計画の原案がようやく出来上がりました。

この計画は、令和七年度中に坂井市の防災計画に紐づけされることになっています。今後は「高椋地区防災計画推進委員会」を立ち上げ、計画に基づく防災活動を実践していくこととなります。現在はその組織作りを急いでいます。



女性視点での防災対策が大事

昨年開催した防災計画策定ワークショップで計画立案されたことについて、今年度はより具体的に災害ごとに洗いなおす作業に入ります。地震対策・風水害対策・大雪対策とより具体的な災害特性への対応が必要となり、「自助・互助・共助」のシステムについても避難所運営がまいります。

また今後は全体的な避難所から福祉避難所が必要となり、女性、子ども、障がい者、高齢者向けと細分化(専門化)が要求されます。このことから女性視点での対策や女性の防災活動への参画が必要不可欠です。

防災組織に女性を登用している所は全国でも少ないのですが、高椋地区は計画推進にも多くの女性の

意見を取り入れるべく、女性の推進委員の募集を改めて導入したいと考えています。防災に関心のある女性の方、私たちと一緒に活動しませんか。

災害を減らす防災から「価値向上型」の防災へ

能登半島地震から学ぶことも多いです。たとえば
 ● 災害により孤立している世帯がある
 ● 被害の状況が把握できていない在宅避難者がいる
 ● 明らかに被害を受けた地域に在宅避難者がいる
 このような状況を見ると、発災直後の在宅避難者等を中心に、緊急的な支援が必要な人がこぼれ落ちないようすることが大事かと思えます。

今回作成した「高椋地区防災計画」が、地区の人間関係、ご近所関係を良好にし、誰一人取り残さない、災害に強い高椋地区を作るお役に立ってくれるよう願っています。
 (防災士 吉田幸恵)



クリスマスふれあいコンサート

12/21 (土)

今年も開催したクリスマスふれあいコンサート。たかむく古城ホールに集まった沢山のお客さんが、幼稚園児の発表のほか、コミセン利用団体、地元の演奏家からのすてきな音楽のプレゼントを楽しみました。



かけっこ教室

10/23 (水)



高椋小学校五・六年生を対象に開催しました。ソウル・ハルセロナオリンピック陸上競技代表の青戸慎司氏を講師にお招きし、正しい走り方やタイムを短縮させることについて、実際の子どもたちを走らせコツを伝えながら教えていただきました。子どもたちは受講前と後の違いを感じ、走る楽しみを実感していました。

迎春の寄せ植え講座

12/11 (水)



土入れのコツや、植えた後の管理について学びました。

花育グループ わたしの推し花

葉牡丹

冬の花が少ない季節に、色とりどりの葉牡丹の葉が目を引きま。葉牡丹の葉は寒さに当たることによって発色がよくなり、紅白の葉はお正月にとってもよく合います。葉牡丹を薔薇の花のように見立てたり、ピオラやアリッサム、プリムラと寄せ植えしたりして、冬中おしゃれに育てられます。

春が近づくと、中心の葉が盛り上がり、ツリー風の姿になります。成長を続けると、菜の花のような黄色い花が咲き始め、種子ができます。次のシーズンの種蒔きが楽しめます。

また、夏越しした株を楽しむ「踊り葉ボタン」の仕立て方もあります。新しい品種も続々出てきて葉牡丹の魅力が増えています。





今年は敬老事業とコラボ 高掬ふれあいまつり開催される

9月15日(日)、高掬地区では初めての試みとして、高掬ふれあいまつりと敬老事業を一緒に開催しました。子供からお年寄りまで、みんなが集いました。令和7年度は今年よりもっと楽しんでもらえるよう工夫しますのでどうぞお楽しみに。



(山車曳き・総踊り) 丸岡古城まつりに協力

丸岡古城まつりが10月13日(日)に開催されました。今年は高掬地区が山車曳きの当番で、区長会を中心にまち協や丸岡高校生、丸岡中学校生がからくり山車を曳き、まつりを盛り上げました。

午後からは「チームたかぼこ」で総踊りに参加。一般募集で集まった高掬地区住民とまち協など、約20人が「丸岡音頭」を踊りました。まち協だけでなく地域の人たちと一生懸命取り組んだことが評価され、敢闘賞をいただきました。



田んぼアート稲刈り

9/28
(土)

昨年五月に植えた「田んぼアート」の稲刈りを行い、子どもたちは稲の刈り方を教えてもらいながら一生懸命刈り取り、実りの秋を実感しました。稲刈りの後は田んぼのあちこちに隠しておいた「当たり」の封筒を探す「宝探しゲーム」をしました。子どもたちは当たりの封筒とお菓子と交換してニコニコでした。

西大寺お米おくり事業に参加して

11/13
(水)



事業当日は朝からまずまずのお天気で、長く参加してきた人によると、西大寺お米おくりで雨に降られた記憶がないとのこと。きつと、お釈迦さまのご加護に加えて、たかむくの善男善女の功德によるものなのでしょう。歴史文化部会では、来年度も西大寺お米おくり事業を計画しております。例年以上の楽しい行程を企画いたしますので、奮ってご参加をいただけますようお願いいたします。

十一月十三日 午前六時半、バスは総員三十二名を乗せ、今年も奈良・西大寺お米おくりに向け出発しました。西大寺では、長老の松村隆善師(真言律宗管長)以下僧侶による法要が営まれ、今年も例年のコシヒカリに替えて、福井生まれのブランド米「いちほまれ」の新米三俵が奉納されました。法要の終わりに、管長から長年のお米おくり事業に対する感謝のお言葉をいただきました。お米おくり奉納の後、一行は元興寺(かんこうじ、奈良市)に参拝しました。元興寺は前身の法興寺(飛鳥寺)に遡ると飛鳥時代(五八八年)に創建され、その後平安時代には南都七大寺に数えられています。現代でも国宝三つのほか数々の重要文化財を有し、「古都奈良の文化財のひとつ」として世界文化遺産に登録されています。そしてこの元興寺、なんと翌週放送の大河ドラマ『光る君へ』紀行で、秋山竜次演じる藤原実資が幼い娘を亡くした後、女兒誕生を祈願するために参詣した旨、日記「小右記」に記述があると映像で紹介されたので

西大寺お米おくり事業について

たかむくのまちづくり協議会では、奈良時代に今の高柳区や吉政区にあったとされる赤江庄(北庄)から奈良西大寺にお米を献上していた史実から、西大寺への献上米プロジェクト事業「西大寺お米おくり」を平成22年度から毎年(新型コロナ流行期間は休止)実施しております。

